

一般社団法人 システムイノベーションセンター(SIC)

デジタルエコノミー分科会

Kickoff

2020年12月11日

Agenda

1. ご挨拶
2. 分科会の趣旨ご説明
3. 各社自己紹介（当分科会への期待値・課題の共有等）
4. 意見交換
5. オブザーバーのご挨拶
6. 事務連絡（今後のスケジュール、進め方等）

1. ご挨拶

高橋 大志
慶應義塾大学 教授

2. 分科会の趣旨ご説明

浦川 伸一
損害保険ジャパン株式会社
取締役専務執行役員

2-1. デジタルエコノミー分科会の目的と検討スコープ

目的

我が国では、個人情報保護法やマイナンバーカード発行の伸び悩みに代表される通り、個人情報の取扱いには非常にセンシティブな国民性もあり、会社をまたがるデータ流通や共有には一定の抵抗感が根強い。一方、AIの社会実装も進みつつあるものの、分析の前提となるデータについては自社保有データでの分析にとどまり、公共データや他社データを共有あるいは流通させ、分析精度を高めるなどの基盤がネックとなっている。これは、データ流通に限らず、企業間でのデータ連携についても同様であり、オープンイノベーションの基盤作りがなかなか進まないのが我が国の現状である。

そこで、オープンイノベーションを前提としたデータ取引を可能とする仕組み、例えば自律分散型でのシステム連携、データ取引所や情報バンクなどによるデータ共有などの構想を具体化し、政府や経済界と連携のうえ実証実験、実プロジェクト立ち上げを行う。

分科会における 検討スコープ

□ 参加企業・アカデミアにて自社のデータ流通構想やユースケースを持ち寄り、要素技術を検討

- 実装方式とアーキテクチャ（自律分散型＋API＋分散ID(PDS)＋AI機能の実装方法）
- PDSのあり方（各社個別保有か、情報銀行保有か、スマホなどクライアント側か）
- データ流通基盤のルール（DFFT、標準化範囲と整備スキーム、データマーケット形成など）
- 自律分散型でのデータ解析（AI）の実装

□ 事例として共通的なビジネスケースを企画・実装・運用して評価

- 自律分散型アーキテクチャ（Trusted Web）を簡易実装し、技術的な考慮事項を洗い出す
- 市場経済を形成すべく、特定の製品に依らない標準化を意識した検討を進める

参加企業の メリット

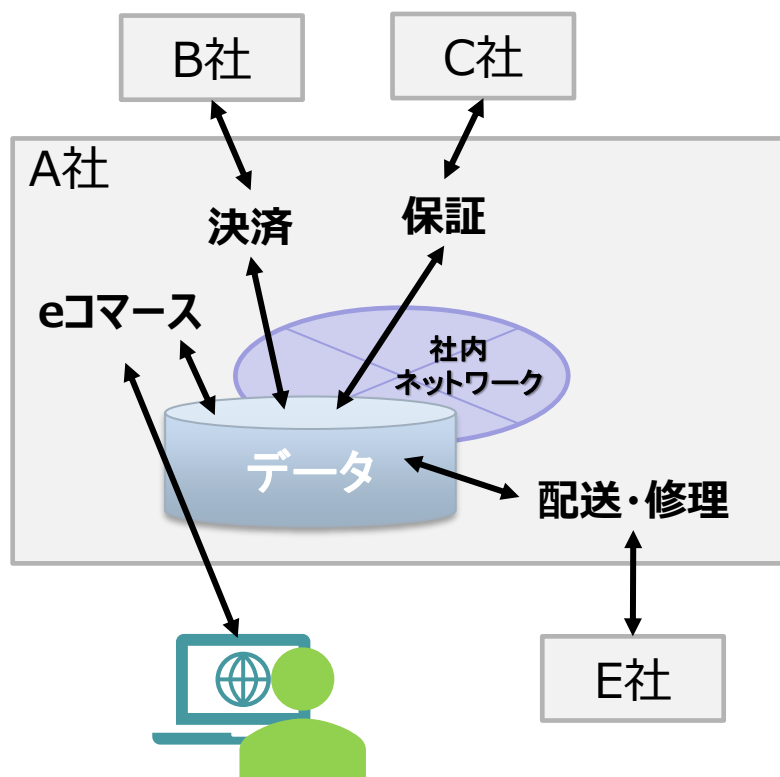
- ・各要素技術において、その道のスペシャリストとコラボレーションすることで幅広くかつ深い検討ができる
- ・分科会で議論した要素技術に関する内容を自社のデータ流通構想やユースケースへフィードバックできる
- ・共通的な「エージェント機能」を活用し、各社のビジネスケースに実装できる

2-2. 目指すべきデータ流通・活用形態のイメージ(eコマース事例)

As Is

一社独占：自社にすべての情報を集約し、活用

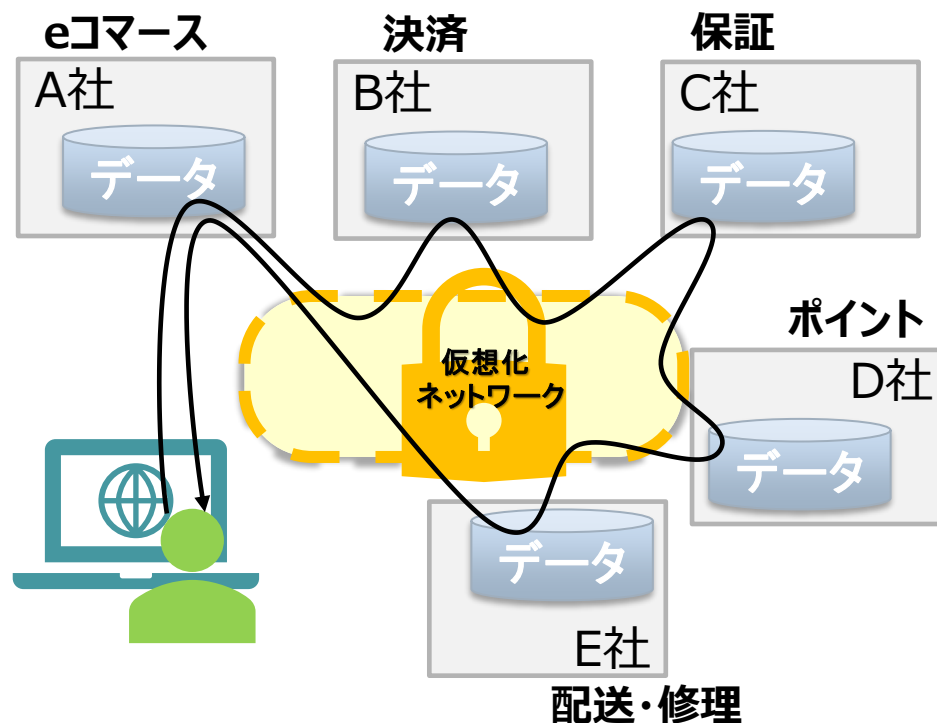
- ① 自社の閉じたネットワーク
- ② 他社との連携は独占企業の仕様により接続
- ③ 共通APIは部分的



To Be

自律分散型：各社に分散したデータをセキュアに相互で活用

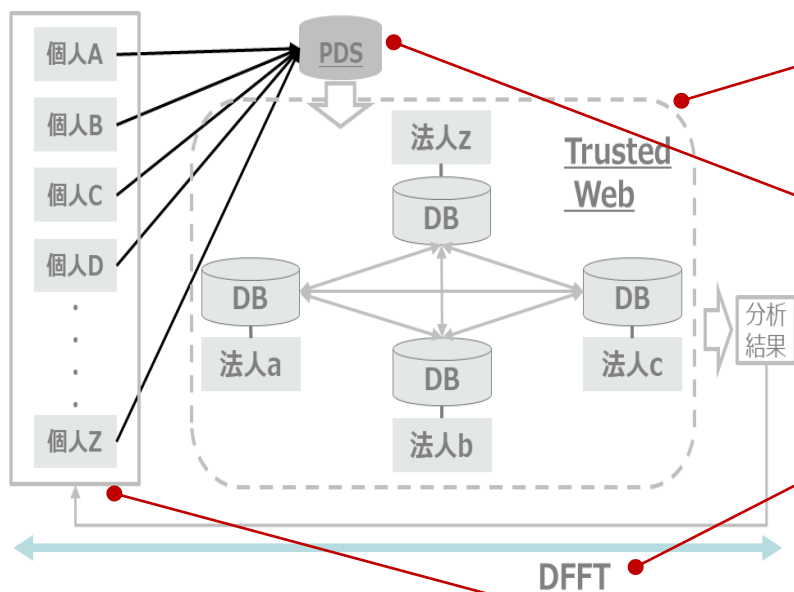
- ① 仮想化されたネットワーク(マルチクラウド+オンプレミス環境も可能)
- ② 各社はCoE (Center of Excellence) を共通API経由で参加
- ③ 共通機能(エージェントやAPIなど)の実装を検討
 - ✓ 相互連携 AIプラットフォーム(エージェント)
 - ✓ PDS / 個人データ保護
 - ✓ 金融機能(決済 / 保険等)
 - ✓ 認証・課金管理
 - ✓ サイバーセキュリティ 等



2-3. データ利活用をどう考えるか

基本コンセプト	✓ データ利活用を軸に、健全な市場経済を構築しつつ活性化させる ✓ データを分散保持しつつ「データ流通」を可能とする技術要件を整理し、環境を整備する
データ流通の現状	✓ 各事業主体が保有するデータを相互に利活用するメリットは理解する ✓ しかし知的財産の観点から、ほとんど活用が進んでいない

検討・実装のポイント



全体実装方式（アーキテクチャ）

- ・自律分散型とし、APIで連携
(顧客情報は 分散型となるので、紐づけ用にID管理が必須)
- ・分散DBを横断できるAI・分析基盤の実装

PDSの実装方式

- ・各社個別保有し、それを連携させる仕掛け
- ・スマホなど個人側で保有し、それをクロールする仕組み

データ流通・分析基盤のルール

- ・データ流通・分析に関する基本規約の策定
- ・標準化の範囲と標準化ルール
- ・マーケティングに関するルール（個人情報保護等）

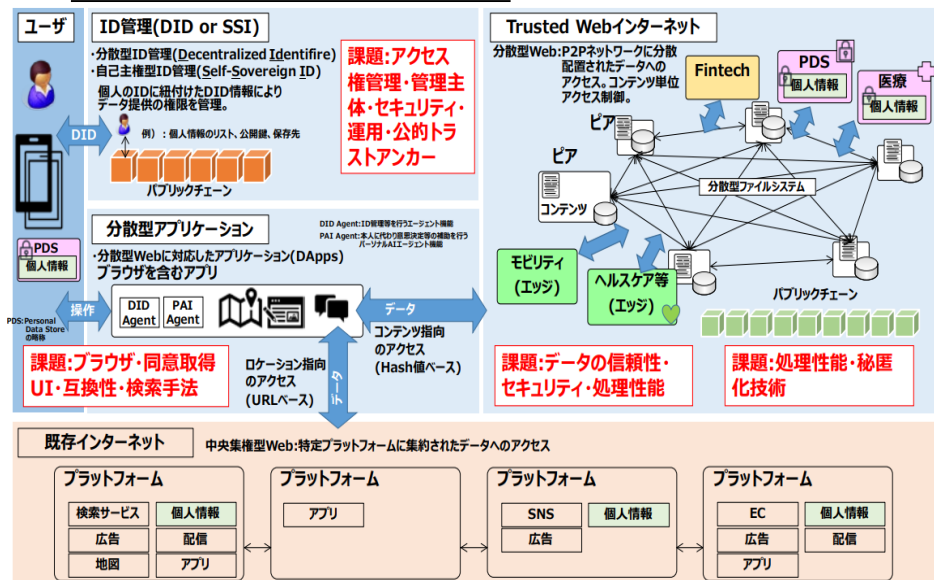
ビジネスケース

- ・ユースケース
- ・料金体系（参加費用＋成功報酬）
- ・個人のメリット

2-4. Trusted Web

Trusted Webは、内閣官房（総務省）がデジタル市場を検討する中で提唱している考え方で、今秋スタートする「Trusted Web検討会議」で検討が進む予定。（当職も検討委員に任命された）

Trusted Web の実装の姿



- ・現行のインターネットレイヤーの上に、データのリガバナンスのレイヤーが追加されていくことが想定される。
- ・実際には、Trusted Web 型のモデルを追求する企業 によって、現行のプラットフォームモデルに対する選択肢が提供されていき、社会ニーズに応じて中期的に普及が進むことが想定される。
- ・その間、Trusted Web と既存のインターネットの構造が併存することが想定される。

想定課題

【勝者総取りの懸念】

・メガプラットフォームは、既存の顧客接点からの横展開によって、進出先市場においても、急速に寡占的なポジションを獲得 して 可能性 がある。

【個人の判断すらコントロールされる懸念】

・生体情報や音声情報など、「深い(Deep)」パーソナル・データ が特定のメガプラットフォームに 囲い込まれることで、リアルな行動・状況を反映した個人の趣向・行動が「丸裸」となるリスクがある。

・パーソナル・データに基づき、個人の行動が監視され、特定のプロファイリングに基づいて個人の行動自体が制約されるという データ監視社会モデルへとつながる懸念がある。

【データの信頼性の欠如】

・データの存在価値が高まるにつれ、データの出元、その帰属、流通履歴、改ざん耐性、検証可能性、スペック(精度、頻度)など、データの信頼性に係る問題が顕在化 してきている。

・リアルと融合する世界の中では、全体のサプライチェーンの中で流通するデータの「品質」が一層強く問われることになる。

・データの品質は、AI の活用における競争力を規定する要素にもなることにも留意する必要がある。

3. 各社自己紹介

(当分科会への期待値・課題の共有等)

4. 意見交換

5. オブザーバーのご挨拶

橋田 浩一
東京大学大学院情報理工学系研究科
ソーシャルICT研究センター 教授

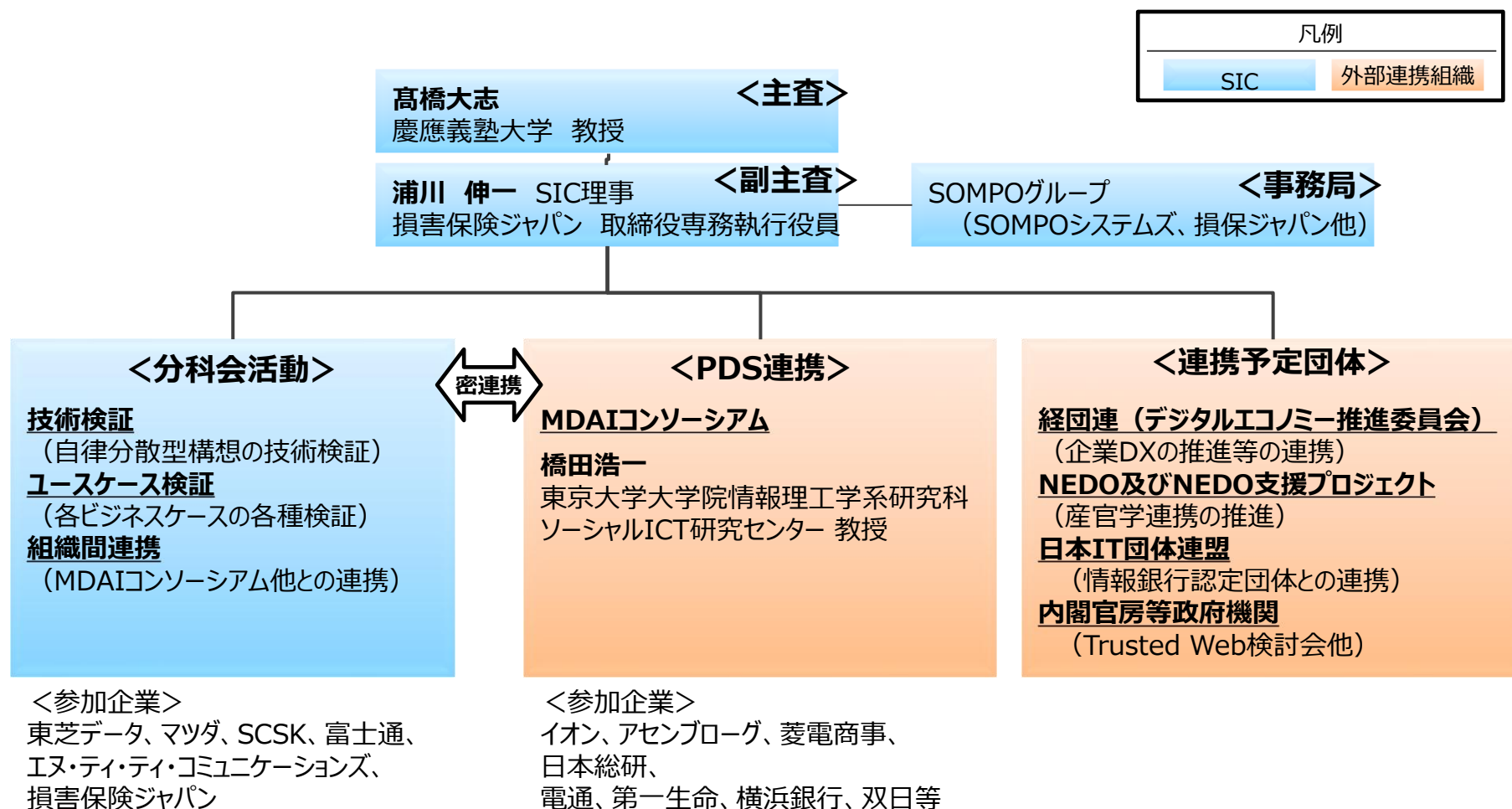
6. 事務連絡

(今後のスケジュール、進め方等)

6-1. デジタルエコノミー分科会の体制

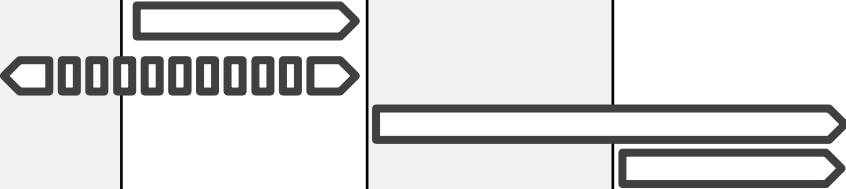
分科会はSICの規約に則り推進します。

並行して、政府、アカデミアなどとの連携を密に進め、実証実験にとどまらず、1年程度での実用化を目標に、マネタイズ可能なビジネススキームの実装を目指します。



6-2. デジタルエコノミー分科会の想定スケジュール

1月中旬以降、検討・実装のために隔週程度、会合を実施します。

	2020	2021			
	12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
マイルストン ・Kickoff ・公聴会(勉強会)	☆	☆	☆	☆	
1. 検討 ・全体実装方式（アーキテクチャ） ・PDSの実装方式 ・データ流通基盤のルール					
2. 実装 ・ビジネスケース研究 ・実装技術の検証 ・ビジネスケース実証実験 ・実用化検証					
3. 産官学連携 ・他SIC分科会連携 ・他団体連携					
4. 全体取りまとめ ・提言書作成 ・承認・公開					